

平成19年度国有林治山事業における事前評価結果一覧

(単位：千円)

整理番号	管理局名	森林管理署等名	都道府県名	地区名		事業名	効果(B)	費用(C)	分析結果(B/C)	備考
1	四国	愛媛署	愛媛	元山	もとやま	奥地保安林	211,112	158,787	1.33	
2	四国	四万十署	高知	西ノ川	にしのかわ	特定流域	2,456,310	645,775	3.80	
3	四国	安芸署	高知	春ヶ谷山	はるがたにやま	復旧治山	130,920	60,570	2.16	

事前評価個表

事業名	奥地保安林保全緊急対策	事業計画期間	平成19年度～平成21年度				
事業実施地区名 (都道府県名)	もとやま 元山 (愛媛県)	事業実施主体	愛媛森林管理署				
事業の概要・目的	<p>当地区は、愛媛県中部西条市加茂川の最上流域に位置している。 平成16年9月の台風に伴う集中豪雨により山腹崩壊、溪流荒廃が発生した箇所であり、その後も、平成17年の台風等による集中豪雨により山腹崩壊が発生している。現在も溪床に多量の不安定土砂の堆積が見られ、降雨の度に崩壊土砂が流出しており、下流にある黒瀬ダムに被害を及ぼしている。 このため、崩壊地、荒廃溪流の復旧整備を実施し、水土保持機能の維持向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>溪間工</td> <td>3基</td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td>1.10HA</td> </tr> </table>			溪間工	3基	山腹工	1.10HA
溪間工	3基						
山腹工	1.10HA						
費用対効果分析	総費用(C)	158,787千円					
	総便益(B)	水源かん養便益	22,268千円				
		山地保全便益	188,844千円				
		環境保全便益	千円				
		災害防止便益	千円				
	計	211,112千円					
	分析結果(B/C)	1.33					
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 山腹崩壊地を放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるとともに、溪床に堆積した不安定土砂が下流域の水源地に流出し、濁水の被害を与えていることから、当事業を実施するものである。 ・有効性： 当該事業の実施により、崩壊地の復旧や溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持向上されることから有効性は認められる。 ・効率性： 費用対効果分析の結果から効率性が認められる。 						

事前評価個表

事業名	復旧治山	事業計画期間	平成19年度～平成21年度
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>ほるかたにやま</small> 春ヶ谷山 (高知県)	事業実施主体	安芸森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、高知県東部北川村奈半利川の上流域に位置している。 平成16年8月の台風に伴う集中豪雨により溪流荒廃が発生した箇所であり、 その後も、平成17年の台風等による集中豪雨により溪岸浸食及び溪流荒廃が拡大している。現在も溪床に多量の不安定土砂の堆積が見られ、降雨の度に崩壊土砂が流出しており、直下の林道及び下流の平鍋ダムに被害を及ぼしている。 このため、荒廃溪流の復旧整備を実施し、水土保持機能の維持向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 3基</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	60,570千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	11,283千円
		山地保全便益	119,637千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	64,973千円
		計	130,920千円
	分析結果(B/C)	2.16	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 荒廃溪流を放置すれば荒廃の拡大及び溪岸浸食による新生崩壊の発生が懸念されるとともに、溪床に堆積した不安定土砂が土石流となり流出する危険性があることから、当事業を実施するものである。 ・有効性： 当該事業の実施により、荒廃溪流の復旧や溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持向上されることから有効性は認められる。 ・効率性： 費用対効果分析の結果から効率性が認められる。 		

様式1

整理番号 1

治山事業費用対効果集計表

事業名：奥地保安林保全緊急対策
 施行箇所：元山

都道府県名：愛媛
 (単位:千円)

大区分	中区分		評価額 B (千円)	備考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	3,346	
		a-2	9,013	
	流域貯水便益	b-1	1,183	
		b-2	3,188	
	水質浄化便益	c-1	1,499	
		c-2	4,039	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	51,115	51,115 + 137,696 + 33 = 188,844 > 0 → 適用する
		d-2	137,696	
	土砂崩壊防止便益	e	33	
環境保全便益	炭素固定便益	f	0	
	酸素供給便益	g	0	
	気候緩和便益	h	0	
	騒音軽減便益	i	0	
	飛砂軽減便益	j	0	
	風害軽減便益	k	0	
	大気浄化便益	l		
	霧害軽減便益	m	0	
	火災防備便益	n	0	
	漁場保全便益	o		
	生物多様性の保全便益	p		
	保健休養便益	q	0	
	災害防止便益	山地災害防止便益	r-1	0
なだれ災害防止便		r-2	0	
潮害軽減便益		r-3	0	
海岸侵食防止便益		r-4	0	
便益合計 (B)			211,112	
事業費 (C) (様式2にて算出)			158,787	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{211,112}{158,787} = 1.33$			

様式1

整理番号 2

治山事業費用対効果集計表

事業名：特定流域総合治山
 施行箇所：西ノ川地区

都道府県名：高知
 (単位:千円)

大区分	中区分		評価額 B (千円)	備考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	1,096	
		a-2	129,238	
	流域貯水便益	b-1	430	
		b-2	50,731	
	水質浄化便益	c-1	545	
		c-2	64,284	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	18,587	18,587 + 2,191,398 + 1 = 2,209,986 > 160,532 → 適用する
		d-2	2,191,398	
	土砂崩壊防止便益	e	1	
環境保全便益	炭素固定便益	f	0	
	酸素供給便益	g	0	
	気候緩和便益	h	0	
	騒音軽減便益	i	0	
	飛砂軽減便益	j	0	
	風害軽減便益	k	0	
	大気浄化便益	l		
	霧害軽減便益	m	0	
	火災防備便益	n	0	
	漁場保全便益	o		
	生物多様性の保全便益	p		
	保健休養便益	q	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	r-1	160,532	適用しない
	なだれ災害防止便	r-2	0	
	潮害軽減便益	r-3	0	
	海岸侵食防止便益	r-4	0	
便益合計 (B)			2,456,310	
事業費 (C) (様式2にて算出)			645,775	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{2,456,310}{645,775} = 3.80$			

様式1

整理番号 3

治山事業費用対効果集計表

事業名：復旧治山
 施行箇所：春ヶ谷山

都道府県名：高知
 (単位：千円)

大区分	中区分		評価額 B (千円)	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	0	
		a-2	5,003	
	流域貯水便益	b-1	0	
		b-2	2,770	
	水質浄化便益	c-1	0	
		c-2	3,510	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	0	0 + 119,637 + 0 = 119,637 > 64,973 → 適用する
		d-2	119,637	
	土砂崩壊防止便益	e	0	
環境保全便益	炭素固定便益	f	0	
	酸素供給便益	g	0	
	気候緩和便益	h	0	
	騒音軽減便益	i	0	
	飛砂軽減便益	j	0	
	風害軽減便益	k	0	
	大気浄化便益	l		
	霧害軽減便益	m	0	
	火災防備便益	n	0	
	漁場保全便益	o		
	生物多様性の保全便益	p		
	保健休養便益	q	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	r-1	64,973	適用しない
	なだれ災害防止便	r-2	0	
	潮害軽減便益	r-3	0	
	海岸侵食防止便益	r-4	0	
便 益 合 計 (B)			130,920	
事業費 (C) (様式2にて算出)			60,570 千円	
費用対効果分析	$B \div C = \frac{130,920}{60,570} = 2.16$			